

## JENESYS2016（派遣プログラム） （派遣国：シンガポール / 大学生）の記録

### 1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム JENESYS2016 の一環として、日本の大学生および引率者計 23 名がシンガポール派遣され、日本の経済、産学、歴史、自然、文化に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2月28日から3月8日までの現地8泊9日の日程でプログラムを実施しました。在シンガポール日本国大使館、ジェトロシンガポールを訪問し、成長著しいシンガポールと日本の関係性について学んだ他、Newater ビジターセンターではシンガポールにおける水資源確保の重要性を知りました。学校交流先2校では山笠踊りを披露するなど、地元山形の伝統文化を発信しました。2泊3日のホームステイでは一般家庭の生活様式の中で積極的に英語を駆使し、見聞を広め、シンガポールでの気づきや日本の魅力について活発に意見交換を行いました。プログラムを通して多くの刺激を受けた参加者は、各々の気づきや体験について SNS を通じて対外発信を行いました。帰国前報告会では、派遣地での気づきと経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）を発表しました。

#### 【参加校・人数】

山形大学 23名

#### 【訪問国】

シンガポール

### 2. 日程

- 2月28日（火） 【オリエンテーション】  
成田空港より出発ーシンガポール着
- 3月1日（水） 【表敬訪問】在シンガポール日本国大使館（ジャパン・クリエイティブ・センター）  
【派遣国概要紹介】ジェトロシンガポール  
【市内視察】ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、チャイナタウン、リトルインディア、アラブストリート
- 3月2日（木） 【学校交流】① ITE College Central (ITE)  
【市内視察】マーライオンパーク  
【水資源】Newater ビジターセンター
- 3月3日（金） 【学校交流】② Nanyang Technological University (NTU)  
【訪問】自治体国際化協会シンガポール事務所（CLAIR）  
【ホームステイ】ホストファミリーマッチング
- 3月4日（土） 【ホームステイ】
- 3月5日（日） 【ホームステイ】

- 3月6日(月) 【視察】チャンギ・チャペル&博物館  
 【商業施設視察】VIVO CITY  
 【日系企業視察】SHOWA DENKO HD SINGAPORE PTE LTD
- 3月7日(火) 【ワークショップ】  
 【報告会】
- 3月8日(水) シンガポール発 成田空港到着

### 3. プログラム記録写真

	
<p>3/1【表敬訪問】在シンガポール日本国大使館/ジャパン・クリエイティブ・センター      【Courtesy Call】Embassy of Japan in Singapore (Japan Creative Centre)</p>	<p>3/1【派遣国概要理解】      ジェトロシンガポール      【Visit】JETRO</p>
	
<p>3/2【学校交流①】ITE College Central      【School Exchange Program】ITE College Central</p>	<p>3/2【水資源理解】Newater ビジターセンター      —      【Visit】Newater Visitor Centre</p>

	
<p>3/3 - 3/5 【ホームステイ】</p>	<p>3/7 【成果報告会】</p>
<p>【Homestay】</p>	<p>【Reporting Session】</p>

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ 山形大学 大学生

今回の訪問を通じて感じたことは、シンガポールは居心地が良いことです。日本の商品や企業が充実しているだけでなく、異国民に対してとても寛容でした。様々な人種や宗教が混在しているからだと思いました。また特に印象的だったことは、国民の危機管理能力です。例えば、厳しい刑罰があるために犯罪をしない、シンガポールにとって極めて重要な水問題への対策、そして大国に負けないために、積極的に外国の企業や人材を取り入れたり、英語を用いたハイレベルな教育等、様々な政策を行っていました。こんなに小さな国がこれだけ発展できるということは、根底に危機感があるからだだと思います。一方で日本は、発展を終えて、平和ボケした感が否めないと思いました。こういった成長している国から刺激を受けて日本もさらなる発展ができたらなと思いました。そして自分ができることは、より高度な教育を受け、英語を勉強し、海外の学生に遅れをとらないために頑張ろうと思いました。

##### ◆ 山形大学 大学生

シンガポールが小国ながらも敬愛水準、科学技術も優れている理由にとっても興味がありました。今回の派遣で、シンガポールの独立の過程を知ることができ、現在の形となる背景を知ることができました。各大学での交流では日本の人気を認識し、自分の自国の勉強の足りなさを実感しました。我々は、日常的に英語を使わないため、上手くコミュニケーションを取ることに苦労しましたが、現地学生にはほとんど話したことの無い日本語を綺麗に使っていたことには非常に驚きました。

ホームステイでは地域レベルで国を学ぶことができました。公営団地を利用し、ローカルな話をたくさん聞くことができました。特に、日本とは異なる教育制度で過ごした経験は興味深く、その大学の設備、生活の違いに驚きました。さらに日本にはない徴兵制度の話は私たちには信じられないことばかりでした。

現在の日本は非常に豊かです。しかし世界に目を向けると全てがそうであるというわけではありません。さらに各国に特徴があり方法があります。常に外に目を向けて情報収集、

発信を行い、交流を図ることで、世界の中での日本、さらには自身を見つめることができると考えています。そのため、チャレンジを忘れず、先を見据えていきたいと思えます。プログラムを通して、知識や経験だけでなく、他国に友人というかけがいのないものを得ることができました。また、英語での発信力も身に付けられたと感じています。

#### ◆ 山形大学 大学生

印象に残ったことの一つに、日本を好きな人が多いということがあります。どこの場所にいても必ず日本に行ったことがある、日本に住んでいた、日本のことが大好きで日本語が話せるといった親日な人がたくさんいたことは日本人として嬉しかった。シンガポールの人たちは長期の目標があり、ITE、NTU、ホームステイ先などで話をする時、話題の中に必ず将来の夢は何？と聞かれることが多く、私は明確に答えることができなかった。国の政策がそうであるように、国民性が反映されていると感じた。日本人は夢を明確に語れる人は少ないと感じた。シンガポールはまだまだ障害者に対する配慮が少ないのではないのかと思うことがあった。例えば、点字ブロック。ブロックが交差点の端にしかなく、歩道を真っ直ぐ歩くのは日本に比べて難しいと感じることがあった。様々な国から様々な人が集まるので、日本と同様な環境にする伸び代はまだまだあると感じた。

### 5. 受入れ側の感想

#### ◆ Nanyang Technological University 大学生

発表は自分達を表現しようとする熱意を持って行われたと思った。シンガポールについての知識が十分に反映され、よく準備されていた。発表では学生は楽しそうに、自分達を表現していたという印象を持った。日本人学生は発表や実演を熱意を持って行い、魅力あるセッションで日本文化の経験や理解を深めてくれた。特に郷土の踊りを熱心に私たちに教えてくれたのは良かった。

#### ◆ Nanyang Technological University 大学生

派遣学生と話すことによって、日本の知識をより多く得ることが出来た。日本とシンガポールの違いについても学んだ。日本文化や生活スタイルについてより多くの情報を得ることができた。学生達は学ぼうとする意欲、彼ら自身の文化体験やシンガポールについて共有しようとする意欲が高く、また NTU での学生生活について好奇心が旺盛だった。

#### ◆ Nanyang Technological University 大学生

発表や実演は熱意を持って行われ、感動した。発表は楽しく、興味深かった。ユーモアのセンスが取り込まれていたところが一層発表を面白くしていた。

#### ◆ Nanyang Technological University 大学生

日本人は大変友好的で、日本は楽しいところだと思う。日本や日本文化について楽しく、有益な形で多くを学んだ。学生は友好的で、伸び伸びしていた。



## 6. 参加者の対外発信

<p>私が今回伝えたいのは、外国人労働者をたくさん受け入れていながらも安全な国が存在すること。 移民増⇒治安悪化 ではなく、やり方次第でなんとかなるということ。  他国を学んで固定観念に捉われない国づくりの意識を持てればいいと思いました！</p> 	<p>4th day (3/3) We visited to Nanyang Technological University (NTU). There's students were also good Japanese speaker, and they made presentations in Japanese!... See More</p> 
<p>移民増加が治安悪化に直結するわけではない。固定観念に囚われない意識を学ぶことが大切。Facebook で発信。</p>	<p>ナンヤン理工大学との学校交流では現地学生が日本語でプレゼンテーションを行った。Facebook で発信。</p>
<p>There are a lot of things to learn about the immigration policy of Singapore. Posted on Facebook.</p>	<p>Amazingly, Student of Nanyang Technological University made a presentation in Japanese. Posted on Facebook.</p>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>「Share Your Experiences」という大学の報告会（2017年4月27日予定）で今回の気づきを発表。</p>	<p>地域の公民館、小中学校で展示会等を行い、地元に向けて情報発信。将来的には東北全域に発信規模を拡大する。</p>
<p>【Action Plan 1】 The delegates will make a presentation about this experiences on the reporting session named “Share Your experiences” on April 27, 2017.</p>	<p>【Action Plan 2】 The delegates will offer information on local community center, elementary school and junior high school. They intend to enhance information dissemination to all over the northern part of Japan.</p>